

学年	中学3年	教科	家庭科	科目	技術・家庭	単位数	1
教科書名	技術・家庭 家庭科（開隆堂）			副教材名			
クラス・コース	中高一貫			担当者名	日下典子		

I. 目標

生活に必要な知識・技術の習得を通して進んで生活をよりよくする能力と実践的な態度を育てる

II. 授業のねらい

住居、消費生活、食などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。

学習した知識や技術を生かして、生活課題を主体的に解決する態度と実践的に生活を充実させようとする態度を育成する。

III. 授業の進め方

- 1.教科書の内容を中心に授業を展開する。
- 2.プリント・課題、実習を行い、知識・技術の定着を図る。

IV. 学習上の留意点

- 1.快適・理想的な住居について考えさせる。
- 2.郷土食、食文化、地域と世界に目をむけた食の現状を考えさせる。
- 3.消費生活について考えさせる。
- 4.普段の生活と関連づけて考えさせる。

V. 定期試験

- 1 学期期末試験の出題分野「被服」について
 - 2 学期期末試験の出題範囲「住居」について
 - 3 学期期末試験の出題範囲「消費」について
- ※各学期期末試験（教科書・プリント・授業の内容を中心に出题する）。

VI. 評価の方法

- 1.定期試験
- 2.提出物の提出状況と内容
- 3.授業や実習・制作活動への意欲的に取り組む姿勢

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	『被服製作』	意欲・態度 提出物 (作品・プリント など)	作品の完成
	5			
	6			
	7			
二学期	9	行事食と郷土料理 食生活と環境とのかかわり 調理実習 『住居』 住まいのさまざまな役割 ともに住まう 住まいの安全対策 災害への備え 住まいと音	意欲・態度 提出物 (プリントなど)	地域の食材や郷土料理について興味を持つ。 持続可能な食生活を送るために食生活を工夫する。 住まいの基本的なはたらきを理解し、住いに必要な空間とその役割がわかる。 家族の生活行為と住まいの空間とのかかわりがわかる。 災害への備えの必要性がわかり、地域とつながる視点から安全で快適な住まい方について考えることができる。
	10			
	11			
	12			
三学期	1	『身近な消費生活と環境』 生活に必要なものの流れ 商品の選択と購入 生活情報の活用 暮らしの中のマーク 販売方法と支払い方法 消費者生活のトラブルを防ごう 消費者を支えるしくみ 調理実習	意欲・態度 提出物 (プリントなど)	自分や家族の消費生活を振り返り、生活をよりよくする。 消費生活におけるトラブルを理解し、予防方法、対処方法がわかる。
	2			
	3			

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。